

日本神経病理学会認定施設

No.	施設名	指導管理責任者	施設基準									
			A	A*	B	C	D	E	F	G	H	
1	三重大学医学部 附属病院	三室 マヤ				○						
2	地方独立行政法人 秋田県立病院機構 秋田県立循環器・脳脊髄センター	宮田 元	○	○	○		○			○	○	○
3	山口大学大学院医学系研究科臨床神経学	神田 隆				○						○
4	東京慈恵会医科大学病理学講座神経病理学研究室	福田 隆浩	○	○	○	○	○			○	○	
6	国立病院機構 南岡山医療センター-脳神経内科	原口 俊							○			
7	京都府立医科大学大学院医学研究科 分子病態病理学	穴戸 由紀子	○	○		○	○				○	○
9	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 神経病理学分野	岡澤 均										○
10	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院	大島 健一	○	○					○	○		
12	鳥取大学医学部	足立 正	○	○		○	○	○	○			
14	金沢大学附属病院	小野 賢二郎			○	○	○					
15	医療法人さわらび会福祉村病院 神経病理研究所	橋詰 良夫	○	○	○				○	○	○	
16	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 精神神経病態学	寺田 整司	○							○		
18	国立病院機構 京都病院	竹内 啓喜				○						
20	公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院	高尾 昌樹	○	○	○		○	○			○	
21	京都大学医学部附属病院	綾木 孝	○									
22	富山大学学術研究部医学系 法医学講座	西田 尚樹	○	○	○			○	○	○	○	○
23	香川大学医学部 病理病態生体防御医学講座 炎症病理学	上野 正樹										○
25	国立病院機構さいがた医療センター	山田 光則	○	○	○			○	○	○		
26	弘前大学大学院医学研究科 脳神経血管病態研究施設 脳神経病理学講座	若林 孝一	○				○			○	○	○
27	東京女子医科大学医学部 病理学講座(人体病理学・病態神経科学分野)	増井 憲太	○	○	○		○				○	
28	独立行政法人国立病院機構 医王病院	石田 千穂	○	○								
29	和歌山県立医科大学	伊東 秀文				○	○	○			○	○
30	信州大学医学部 神経難病学講座 分子病理学部門	山田 光則	○	○		○	○	○			○	○
31	久留米大学医学部病理学講座	古田 拓也	○	○			○			○	○	○
32	新潟大学 脳研究所	柿田 明美	○	○	○		○	○	○	○	○	
33	愛知医科大学 加齢医学研究所	岩崎 靖	○	○	○			○	○	○	○	○
34	独立行政法人国立病院機構 東名古屋病院	齋場 郁子	○						○			
35	東京都健康長寿医療センター	齊藤 祐子	○	○	○	○		○	○	○	○	
36	国立病院機構 大阪刀根山医療センター	井上 貴美子	○	○	○	○		○			○	
38	独立行政法人 国立病院機構相模原病院 脳神経内科・臨床研究センター	長谷川 一子	○	○					○	○	○	
39	東京都立神経病院	小森 隆司	○	○	○	○	○			○	○	
40	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター 病理診断科	鈴木 博義	○	○	○		○			○	○	
42	国立精神・神経医療研究センター病院	高尾 昌樹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
43	北海道大学大学院医学研究科	田中 伸哉	○	○		○	○	○	○	○	○	
45	公益財団法人 慈恵会 精神医学研究所	石津 秀樹	○						○			
48	独立行政法人国立病院機構 下総精神医療センター	女屋 光基							○			
50	奈良県立医科大学 脳神経内科学	杉江 和馬				○					○	
51	杏林大学保健学部	島田 厚良										○
52	横浜市立大学医学部神経内科学脳卒中医学	田中 章景	○	○								
53	大阪大学大学院医学系研究科 神経内科学	望月 秀樹	○	○		○	○	○			○	○
54	島根大学医学部附属病院病理部	荒木 亜寿香	○	○		○	○			○	○	
55	東京大学 医学部附属病院	池村 雅子	○	○		○	○				○	

2023年新規申請

57	(新規1) 東北大学病院病理部	鈴木 貴	○	○	○	○	○					○
58	(新規2) 埼玉医大国際医療センター	本間 琢						○				
59	(新規3) 国立病院機構大牟田病院 神経病理センター	本田 裕之	○	○	○							

施設基準

A	脳・脊髄を含む神経疾患の病理学的検索を年間10例程度行い、標本作製、診断書作成、報告書作成(コンサルテーションを含む)、神経系のGPCなどを行っている施設。
A*	院外症例の搬入剖検が可能である。
B	プリオン病の病理解剖、標本作製と診断が可能な施設。
C	筋生検または神経生検の標本作製と診断を年間10例程度行っている施設。
D	神経系に関連する脳外科病理の標本作製と診断、報告書作成を年間10例程度行っている施設。
E	ブレインバンクとして凍結脳組織の収集・管理・試料蓄積を行っており、外部への試料提供が可能な施設。
F	主要な神経疾患の脳・脊髄の標本が500例以上蓄積され、神経病理の教育が可能な施設。
G	神経病理認定施設を標榜するのにふさわしい十分な研究実績を備えている施設(実験病理、獣医神経病理、などを含む)。
H	法医学に関連する神経系の検索、診断書、報告書作成(コンサルテーションを含む)が可能な施設。

認定施設申請書の提出順に掲載しています。

2023年10月 日本神経病理学会認定医制度委員会